

令和4(2022)年度新規拠点公募の内容について

令和4年2月8日

文部科学省 研究振興局 基礎・基盤研究課

令和4年度・新規拠点公募の主なポイント

【新規拠点採択の方向性】

- ◆優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る「目に見える研究拠点」の形成
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、**国際頭脳循環を更に深化**
- ◆**新たなミッションの下**、世界トップレベルの基礎研究拠点となる構想を**3拠点採択**

【新ミッションに沿った拠点形成】

従来のミッションである「トップ・サイエンス」、「分野融合研究の推進」、「研究環境の国際化」、「研究システム改革」を高度化、**基礎研究の社会的意義・価値の共有や人材育成等のミッションを新たに追加。**

- ◆ **World-Leading Scientific Excellence and Recognition**
(世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立)
- ◆ **Global Research Environment and System Reform**
(国際的な研究環境と組織改革)
- ◆ **Values for the Future**
(次代を先導する価値創造)



新ミッションに沿った定期的な拠点採択を行う予定

新ミッションと評価の観点

ミッション	取組の方向性	評価の観点例
<ul style="list-style-type: none"> ● World-Leading Scientific Excellence and Recognition (世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立) 	<ul style="list-style-type: none"> ● The Highest Level of Research Impact (世界最高水準の研究成果) ● Expanding Knowledge Frontiers through Interdisciplinarity and Diversity (分野融合性と多様性による学問の最先端の開拓) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Research Impact; Comparison with benchmark institutes; Impact Factors, Citations (Top 1%/10%) ● Metrics derived from research fronts (highly-cited papers clusters) ● Diversity of center personnel (in terms of internationality and gender) ● [Narratives regarding scientific achievements]
<ul style="list-style-type: none"> ● Global Research Environment and System Reform (国際的な研究環境と組織改革) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Harnessing Talent and Potential through Global Brain Circulation (研究力向上のための国際頭脳循環の達成) ● Interdisciplinary and Inter-organizational Capacity Building (分野や組織を越えた能力向上) ● Effective, Proactive and Agile Management (効果的・積極的かつ機動的な組織経営) 	<ul style="list-style-type: none"> ● International collaborations; Top researches/Postdocs exchanges; World-class research meetings; Presence of foreign researchers ● Disciplinary diversity of research environments and outputs (teams, articles, journals) ● Host institutions' efforts for making system reforms ● [Narratives regarding practices]
<ul style="list-style-type: none"> ● Values for the Future (次代を先導する価値創造) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Societal Value of Basic Research (基礎研究の社会的意義・価値) ● Human Resource Building: Higher Education and Career Development (次代の人材育成: 高等教育段階からその後の職業人生まで) ● Self-sufficient and Sustainable Center Development (内製化を見据えた拠点運営、拠点形成後の持続的発展) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Societal impact of social sciences and natural sciences ● Rolling out the best practices; Contributions to higher education reform ● Branding strategy for the WPI program and host institutions; Outcomes of outreach activities ● [Narratives regarding practices]

令和4年度・新規拠点公募の概要①

対象機関	<p>大学、大学を設置する法人、大学共同利用機関法人、国立研究開発法人、公益法人</p> <p>既に採択されているホスト機関も申請可能。ただし、WPI拠点またはWPIアカデミー拠点を有するホスト機関のうち、新ミッションの下で採択された拠点を有するホスト機関については、今般の公募に申請できない。また、既存拠点の運営に対するホスト機関のコミットメントや既存拠点との両立等について厳正に確認し、審査に反映。</p>
採択件数 支援規模	<p>3 拠点</p> <p>総額70億円を上限として10年間支援。初年度の上限額は約7億円。</p> <p>支援開始後6年目以降は、当該拠点の自立化に向けて毎年の支援規模を漸減。</p>
支援内容	<p>人件費・事業推進費・旅費・設備備品費等</p> <p>研究プロジェクト費は除く（ただし、スタートアップ経費は一部支出）。</p>
拠点構想の 主な要件	<p>対象研究領域</p> <p>基礎研究分野（基礎から応用への展開を目指す分野を含む）。</p> <p>原則として異分野を融合させ、将来の重要な学問分野の創造が期待される研究領域。</p> <p>新たに、人文・社会科学を主とした自然科学との融合領域も対象とする。</p>

令和4年度・新規拠点公募の概要②

拠点構想の 主な要件

○拠点運営の主要プレイヤー等

- ・ 拠点長： 助成期間である**10年間にわたり研究をリード**することに加え、拠点の「顔」として、**拠点運営に専任として常に携わる**
 - ・ 事務部門長： **拠点長を事務管理面で強力に補佐**、研究者が快適に研究できる環境を提供し続ける
 - ・ 拠点を構成する研究者等
 - － **世界トップレベルの研究者7～10人程度**またはそれ以上の主任研究者（教授、准教授）の集結
 - － 主任研究者のうち、海外から招へいする**外国人研究者の割合は2割程度**またはそれ以上を目標
 - － ポスドク、研究支援員、事務スタッフ等を含めた**総勢は70～100人程度**を目標
 - － 研究者の**常に3割程度以上は外国人研究者** 等
- ※ 人的交流が制限される状況下でも、雇用形態の工夫やサポートの充実、新たな仕組みの導入などにより研究のアクティビティの維持・強化を図ること。

○環境整備

- ・ **使用言語は英語**、英語による職務遂行が可能な事務スタッフ機能を整備 等
- ※ 研究環境のDX化などを取り入れ、強靱な研究環境の構築や新たな研究手法の導入等を図ること。

○研究資金等の確保

- ・ 拠点運営及び拠点での研究活動のため、本プログラムからの**支援額と同程度以上のリソースを確保**
(リソースの具体例)
 - ・ 当該拠点に参加する研究者が獲得する競争的資金等の研究費
 - ・ ホスト機関からの現物提供 等

令和4年度・新規拠点公募の概要③

拠点構想の 主な要件

○新ミッションで新たに追加された主な要件

・ **基礎研究の社会的な意義や価値の共有**

拠点の研究成果や内容に関する社会的インパクトや研究意義・成果の価値を発信するための取組や体制整備の計画を示すこと

・ **次代の人材育成の実施**

世界トップレベルの研究活動や研究環境等を通じた人材育成に関する目標や計画を示すこと。

・ **自立化に向けた既存組織の再編と一体的な研究拠点構築**

当該拠点が支援終了後に自立化するよう、本プログラムの支援による整備と既存組織の再編とを一体的に進めること。

ホスト機関 のコミット メント

○拠点が真に「世界トップレベル研究拠点」となり支援終了後に自立化するよう、**支援期間中から機関を挙げて全面的な支援を行うこと**

○申請の際に、以下のコミットメントを具体的に明示すること

・ 既存組織の再編等を含む基本方針の表明及び今後の具体的な計画・スケジュールの策定

・ 拠点の運営及び研究活動の実施のための必要な人的、財政的及び制度的支援

・ 本プログラム終了後も、拠点の自立化に必要な支援を行うこと

・ 拠点が達成した成果を自己評価し、機関全体へ展開・波及すること

等

1. 人件費

(具体例)

- 招へいPI (Principal Investigator:主任研究者) の給与、住居手当、子女教育手当等
- ポスドクなど、優秀な若手研究者の支援に必要な経費
- 研究支援員、RA (Research Assistant) 、事務スタッフ等の給与

2. 事業推進費

(具体例)

- スペースを確保するための経費
- 連携機関との共同研究の実施のために必要な経費
- 国際的な研究集会の開催等、アウトリーチ活動に係る経費
- 招へい研究者のスタートアップ研究費
- 必要な最先端設備の運用費 (光熱水費)

3. 旅費

(具体例)

- 研究者が研究集会等に参加する際の旅費・滞在費
- 研究者を招へいする際の旅費・滞在費

4. 設備備品費

(具体例)

- 必要な最先端設備の開発費、整備費

※研究プロジェクト費 (研究拠点で行われ、かつ、個々具体の研究開発課題に基づく研究プロジェクト事業を実施するために必要な経費) については、本事業の補助金からの支出は認められない。

令和4年度・新規拠点公募に係る審査について

審査体制・ 審査方法

外国人有識者を含む外部有識者からなる委員会（以下「プログラム委員会」）による、二段階の書類審査並びに拠点長候補者及びホスト機関の長からのヒアリングを伴う審査の三段階審査による選定。

【一次審査】（書類審査）

- ・ 一次審査委員会は、プログラム委員等から7名程度により以下に該当する者で構成。
 - ①大学・国立研究開発法人等の研究及び運営に関し、豊富な経験と識見を有する者
 - ②研究マネジメント経験を有する者
- ・ 拠点構想等の概要（一次審査申請書）に基づき、**最大10件**選定。

【二次審査】（書類審査、メールレビュー、二次審査委員会）

- ・ 一次審査で選定された拠点構想から、詳細な拠点構想等（二次審査申請書）に基づき、**最大6件**選定。

【三次審査】（ヒアリング）

- ・ 三次審査委員会による、拠点長候補者及びホスト機関長からのヒアリング
- ・ 文部科学省は、三次審査によって選定された**3件の拠点構想を採択**する。

スケジュール

申請書の記載・提出について御不明な点があれば、日本学術振興会世界トップレベル拠点形成推進センター(03-3263-0967)まで。

- ・ **一次審査申請書締切：令和4年3月29日（火）午後5時まで（必着）** 4月下旬頃結果通知予定
- ・ **二次審査申請書締切：令和4年6月1日（水）午後5時まで（必着）** 8月中旬頃結果通知予定